

令和4年度 学校自己評価システムシート(県立けやき特別支援学校)

目指す学校像	安定した人間関係を形成し、「自らの病状や実態を理解し、自らの健康管理ができる力」と「基礎学力」を身につけさせ、子どもたちの夢や希望の実現に向けて全力で取り組む、保護者・病院から信頼される学校
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 病弱教育における自立活動の観点を押さえ、ICTを活用した授業の充実を図る。 2 子ども主体の各種活動をおとし、豊かな心・創造性を育む。 3 円滑な復学支援をはじめ、病弱教育のセンター的機能を充実させ、病弱教育の啓発に努める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	1名
	事務局(教職員)	12名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価		
年 度 目 標		年 度 目 標		年 度 目 標		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	
1	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、病弱教育における「自立活動の意義と押さえるべき観点」について研修、整理を行った。 ・ICT機器を活用し、授業の充実を図っているが、教職員全体が活用できているわけではない。またICT機器の管理等が周知・徹底されていない。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自立活動の意義と押さえるべき観点」をもとに実践を重ね、理解を深めていくことが課題である。 ・教職員全体のICTスキルの向上とICT機器の管理の徹底。 	<p>・病弱教育における自立活動の観点を整理と実践</p> <p>・ICT機器を活用した授業の充実</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①自立活動における実態把握や課題設定等についての見方・考え方を深め、教員の指導力向上を図るため研究グループで対象児を設定し、実践研究に取り組む。講師招聘研修会や関連・全病連等の研修内容を踏まえながら、教育活動全体での実践の蓄積を図る。また、病弱教育における自立活動の観点を検討・整理し、各グループの実践と併せて2月10日の報告会で発表する。(研究部) ②ICT研修を行い、ICT機器の適切な扱い方を周知するとともに、機器の有効な活用法について実践例を紹介することで、職員ICT機器の活用能力を高める(情報教育部) ③自立活動における有効なICT機器の実践をさらに積み重ね、適宜検証していく。(小学部) ④昨年度に作成した引継ぎ資料を実際に活用すると共に、完成度を高めていく。(教務部) 	<ol style="list-style-type: none"> ①実践研究において、児童生徒の見方考え方を深め、自立活動の実践を蓄積することができた。(研究部) ①病弱教育における自立活動の観点を整理することができた。(研究部) ②様々な教育活動の中で、適切にICT機器を管理し、効果的にICT機器を活用することができた。(情報教育部) ③学部研究において、病弱教育における自立活動の意義と押さえるべき観点について、整理することができた。(小学部) ③各教員がICT機器の実践を積み重ねることができた。(小学部) ④昨年度作成した引継ぎ資料の改善を図ることができた。書類の間違い等を減らすことができた。(教務部) 	<p>①実践に取り組み、自立活動の観点を整理する過程の中で、情報共有や検討を重ねながら、児童生徒一人一人の実態や課題について理解を深めることができた。予定通り、研究や研修を進めることができた。(研究部)</p> <p>①講師招聘研修会の実施(講義及び事例研修6月、8月)。関連連、全病連の研修会参加(視聴、8月)(研究部)</p>	<p>達成度 B</p> <p>次年度への課題と改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【次年度への課題】 ・自立活動の観点を踏まえながら教科指導の研修を進め、教科の基礎学力の定着を図る。 ・学校教育の中でのICT機器の有効な活用のさらなる充実と、機器管理の徹底 ・ホームページをはじめとする広報活動の活性化 【改善策】 ・今年度内に次年度の方向性を出し、計画的に取り組む。 ・教科会を活用しながら教科指導の指導力の向上を目指す。 ・研究の課題と反省を教職員で共有し、さらに実践の充実を図る。 ・データ管理やICT機器の扱い方などの周知徹底。 ・機器の活用研修を実施し、授業の中での効果的な活用につなげる。 ・活用しやすい学校ホームページを目指し、リニューアルを行う。
2	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育全般において、児童生徒が主体的に活動に取り組むことが難しく、達成感・充実感を得られ難いため、児童生徒の自己肯定感・自立心が育み難い。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に応じた各種活動(学校行事や各種委員会等)をおとし、活動を工夫し、達成感・充実感を得ることで、自己肯定感・自立心の育成を図る。 	<p>学校教育全般をおとし、児童生徒の自己肯定感・自立心の育成と向上を図る</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①ICT機器等の活用をおとし、児童生徒が企画・運営に主体的に取り組めるよう工夫する。また、児童生徒が、短期間でも満足感や充実感を得られる活動となるように指導計画を作成する。(指導部) ②学習に有効な資料や教材を作成し、学部への情報提供や関連教科等とも連携を図る。児童生徒保健委員会活動を充実させ、教員間では緊急時対応の研修を実施する。(保健環境部) ③行事等の実施後、振り返りの時間を充実させる。また、保護者アンケートを実施し、生徒の姿容や運営課題を把握し次の行事に生かす。(中学部) 	<ol style="list-style-type: none"> ①活動後に実施する振り返りにおいて、各児童生徒が全体の8割以上で充実感を得ることができた。また、在籍期間の短い児童生徒の自己評価において、主体的、活動への意欲等の項目について高い評価を引き出すことができた。(指導部) ②分室内研修、資料・教材作成、学部や関連教科・領域間等との連携、情報提供、児童生徒保健委員会活動、緊急時対応の研修会を通して、健康教育推進の働きかけができた。(保健環境部) ③2種類の振り返り(行事実施直後と転出前)から自己肯定感・自立心が育ったことが読み取れた。保護者アンケート内の課題が改善されたか。(中学部) 	<p>①ICT機器を活用し、ベッドサイドから活動に参加し、委員会活動や行事の運営を進めることができた。活動の振り返りについては、ワークシートを用い、概ね8割以上の児童生徒が充実感や達成感を味わうことができた。(指導部)</p> <p>②教員向けに「てんかん時における緊急時対応訓練」を実施した(6月)</p> <p>また、健康促進、ストレスコーピング、口腔関係など、分掌主催の研修会を実施し、教材や資料などを職員間で共有し、健康促進のための活動を推進できた。(保健環境部)</p> <p>③行事等の保護者参観がなかったため、保護者へのアンケートの実施には至らなかったが、生徒の振り返りの中で8割以上の達成感、充実感を得られた。生徒の主体性を引き出す課題を設定し、仲間と共に課題を克服していく体験をおとし、多くの生徒の自己肯定感を高めることができた。(中学部)</p>	<p>達成度 A</p> <p>次年度への課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【次年度への課題】 ・各学部、委員会等の学校教育全般の中で、課題意識を持ち取り組めていたが、短期間の在籍期間の児童生徒も多かったため、引き続き丁寧な実態把握と心のケア、積極的な活動への授業参加を促し、達成感、自己肯定感を育んでいく。 ・ICT機器の活用良さもあるが、SNSでつながる怖さ、「機械(画面)の向う側に人がいる」ということを知り、上手に活用できるよう進めたい。自分が発信することで、相手がどんな感情を抱くのか、生身の人間とコミュニケーションを取っているのだという自覚を持ち、テクノロジーが先行するのではなく、上手に付き合えるようメディアリテラシーの指導も大切である。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドや自宅からも活発に委員会活動に参加できるようICT機器を有効に活用する。 ・心と体のケアについての健康教育促進の取組をとり、学部や関係機関、病院関係者等と連携を図る。 ・自立活動などの時間を活用し、振り返りの活動をさらに充実させ、日々の生活に活かせるよう個に応じた指導を行う。
3	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全県におけるセンター的機能を行っているが、入院期間の短期化、復学時配慮を要する多様なケースが増加してきている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き関係機関と連携し、病弱教育の理解に向けての情報を発信が必要である。 ・コミュニティスクール制度導入について検討準備を行う。 	<p>・多様化する復学支援への対応と病弱教育のセンター的機能の充実を図る</p> <p>・コミュニティスクール導入に向けての情報収集と検討準備</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①病弱教育の理解のための動画制作を少しずつ進めている。作業部会で関係者への周知徹底を行う。(相談支援部) ②病院との連携を更に密にし、多様化する復学支援に対応できるよう研修を実施する。(相談支援部) ③コミュニティスクールについての情報収集を行い、全体研修を実施し、情報(企画委) 	<ol style="list-style-type: none"> ①病気の配慮についての動画を2つ制作できた。作業部会で関係者への周知をはかることができた。(相談支援部) ②多様化する復学支援の研修を実施することができた。(相談支援部) ③コミュニティスクールについての情報収集を行い、全体研修を実施することができた。(企画委) 	<p>①病気の配慮についての動画を制作した。(相談支援部)</p> <p>②配慮を要する復学支援の研修会を実施した。(6月) 復学支援会議33回、学校コンサルテーション6回、教育相談117件(保護者、学校関係者)、高校生支援6名、その他大学との連携など(相談支援部)</p> <p>③令和6年度コミュニティスクール実施に向け2回研修を実施した。(8月と12月)。コミュニティスクールについての情報の周知、現在の実践と将来実施可能な取り組みについて、小グループでグループワークを行い、方向性を探った。(企画委員会)</p>	<p>達成度 A</p> <p>次年度への課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【次年度への課題】 ・校外に向けて、病気の理解や配慮について、周知できるようさらに働きかけていく。校内での復学支援についての再確認。 ・令和6年度コミュニティスクール実施開始に向けての準備徹底。 【改善策】 ・病気の配慮についての動画の作成し、ホームページ等を活用し広く周知していく。 ・復学支援研修を実施し、復学に向けての重要性や確認事項の定着を図る。 ・コミュニティスクールの具体的な実施方法、メンバーの選出など、年度当初に年間スケジュールを立て、計画的に準備を行う。

学校関係者評価	実施日 令和5年2月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等	